

国際交流事後活動ニュース

# MACROCOSM

マクロコズム



## Contents

平成19年度内閣府青年国際交流事業募集特集	2
第33回「東南アジア青年の船」事業	4
「日本・韓国青年親善交流」事業(招へい)	8
「日本・中国青年親善交流」事業(招へい)	9
日本青年国際交流機構第22回全国大会	10
日本青年国際交流機構第44回全国推進会議	12
事後活動組織による災害復興活動支援(京都府IYEO)	13
ターニングポイント(足立文彦氏)	14
国際理解教育支援プログラム	18
SSEAYPインターナショナル第19回総会(SIGA)参加者募集	21

2007.3 VOL.75

(財)青少年国際交流推進センター



## 2 平成19年度内閣府青年国際交流事業募集特集

### 日本参加青年募集概要

	航空機による青年海外派遣			世界青年の船	東南アジア青年の船	
	国際青年育成交流	日本・中国青年親善交流	日本・韓国青年親善交流			
訪問国	バルト三国、カンボジア、ヨルダン、メキシコ、ミャンマー（うち1か国・地域を訪問）	中国	韓国	中近東、アフリカ、ヨーロッパ、北米、中米、南米、オセアニア等地域の外国青年約140人と共に船内で共同生活をしながらインド、オマーンを訪問	ASEAN10か国の青年約300人と共に船内での共同生活などをしながらインドネシア、マレーシア、シンガポール、タイ及びベトナムを訪問	
実施時期（期間）	平成19年 9月3日～23日	平成19年 9月5日～23日	平成19年 9月9日～23日	平成20年 1月24日～3月4日	平成19年 10月23日～12月11日	
募集人員	各12名 （合計60名）	一般団員：25名 渉外団員：2名		120名程度	40名程度	
応募要件	国籍	日本国籍を有すること				
	年齢（注）	18歳～30歳	一般団員：18歳～30歳 渉外団員：おおむね25歳～35歳		18歳～30歳	
	事後活動	帰国後、事業での経験を活かした青少年活動や国際交流活動などの社会貢献活動を積極的に行うことが期待できること				
	教養	我が国や訪問国に関する一般的な教養を有すること				
	語学力	活動を円滑に行う英語力	一般団員：訪問国の公用語により簡単な日常会話ができる者が望ましい。 渉外団員：訪問国の公用語で通訳を円滑に遂行することができること。		活動を円滑に行う英語力	
その他	国が行う同種の事業に参加したことがある者は応募できません（ただし、渉外団員への応募はこの限りではない）。					
研修	事前	7月9日～14日		9月18日～23日	7月28日～8月2日	
	出発前	9月1日～2日	9月3日～4日	9月7日～8日	1月19日～23日	10月19日～23日
	帰国後	9月24日～26日		-	12月12日	
個人負担額	約9万円			約20万円		
	内訳：研修費（事前、出発前、帰国後）、船内供食費（船事業のみ）、渡航手続費用など ※上京・帰郷旅費等は別途負担になります。					

（注）年齢は全て平成19年4月1日現在

なお、訪問国及び日程は、諸事情により変更になることがあります。最新の情報はホームページで確認してください。

<http://www.cao.go.jp/koryu>

内閣府青年国際交流事業の素晴らしさを周りの人に、そして広く社会に伝えましょう！



## 応募から選考までの主な流れ

	航空機による青年海外派遣			世界青年の船	東南アジア青年の船
	国際青年育成交流	日本・中国青年親善交流	日本・韓国青年親善交流		
応募先	各都道府県の青少年対策主管課(室)及び全国的な組織を持つ青少年団体				
応募期間	概ね2月初旬～3月中旬(※応募先の都道府県等により異なる)				
選考の流れ	○中間選考：応募を受け付けた都道府県又は青少年団体が実施 3月末～4月中旬(※応募先の都道府県等により実施方法、内容が異なることに注意)				
	○第2次選考：内閣府が実施				
	5月12日又は13日	5月19日		5月26日又は27日	5月20日
	①～③を実施	一般団員：①及び②を実施 渉外団員：①及び③を実施		①～③を実施	①～③を実施
	①人物面接(個人面接とグループ面接) ポイント：国際的な交流を通じて将来の糧を掴もうという積極的で前向きな気持ちを有するかどうか。 ：事業参加経験を活かした国際交流活動や青少年活動等の社会貢献活動を期待できるかどうか。等				
	②教養試験(筆記試験) ポイント：我が国の伝統文化や歴史、政治、経済、社会情勢などに関する一般的な教養を有するかどうか。 ：訪問国や交流相手国に対する関心や知識を有するかどうか。等				
③口頭会話試験 ポイント：言葉を含むコミュニケーション能力を有するかどうか。 ：活動を円滑に行うことができる英語力を有するかどうか。 ※ただし、訪問国の公用語による会話能力がある者については、選考に際しその点を考慮する。 ：中・韓の渉外団員は通訳を円滑に行うことができる語学力を有するかどうか。等					
○最終選考：内閣府が実施(事前研修を兼ねて実施) ポイント：事業の趣旨・目的を理解し、十分な自覚をもって行動することが期待できるかどうか。 ：団体活動で求められる適切な行動を取ることが期待できるかどうか。等					



### 国際青年育成交流事業「討議セッション」(第5回)募集

実施期間：平成19年7月15日(日)～19日(木)の5日間

実施会場：国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都渋谷区代々木)

募集人数：日本青年約60名

※詳細については、左ページの内閣府ホームページを御確認ください。なお、5月号に詳しい募集案内を掲載します。



## 4 第33回「東南アジア青年の船」事業

# 第33回「東南アジア青年の船」事業 The 33rd Ship for Southeast Asian Youth Program

第33回を迎えた「東南アジア青年の船」事業は、アセアン10か国（ブルネイ、カンボジア、インドネシア、ラオス、マレーシア、ミャンマー、フィリピン、シンガポール、タイ及びベトナム）と日本からの青年325名（各国1名ずつのナショナル・リーダー含む）が参加して実施されました。

### ～航路及び寄港地～

10/23	横浜(日本) 出航
10/30～11/4	シンガポール
11/1～11/2	シンガポール寄港中、代表団が航空機でヤンゴン(ミャンマー)を訪問
11/6～11/9	ジャカルタ(インドネシア)
11/12～11/15	ポートクラン(マレーシア)
11/19～11/22	ムアラ(ブルネイ)
11/25～11/28	マニラ(フィリピン)
12/4～12/12	日本国内活動
12/5	課題別視察、内閣総理大臣表敬
12/6～12/10	地方プログラム(学校訪問、日本・アセアン青年交流プログラム、ホームステイ:山形県、富山県、石川県、愛知県、奈良県、岡山県、広島県、徳島県、福岡県、佐賀県、熊本県)
12/11	秋篠宮同妃両殿下御引見、評価会、解散式、解散パーティー
12/12	外国青年離日



真剣に話し合う参加青年(伝統文化グループ)



アイデアをシェアしあう参加青年(インフォメーショングループ)

### ディスカッション活動

船内活動の中心的なプログラムである「ディスカッション活動」では、共通テーマ「青年の社会参加」のもとに、8つの分野別グループ・テーマ(異文化理解、環境、インフォメーション、国際関係、学校教育、伝統文化、ボランティア、青少年育成)をおきました。各参加青年はそれぞれの関心の高いグループ・テーマを選んで、各分野において青年が貢献し得る活動についてディスカッションを行いました。

船内におけるグループ・ディスカッションは、各グループに1名ずつのファシリテーターと、参加青年の代表が中心となって進めていきました。このファシリテーターは、アセアン10か国と日本から公募し、「東南アジア青年の船」事業や「世界青年の船」事業の既参加青年を中心に8名が採用されました。

また、船内でのグループ・ディスカッションに加えて、マレーシアにおける寄港地活動では、グループ・テーマごとに、それぞれの分野に関連した施設等を訪問し、マレーシアにおける実情を認識するとともに、さらに深いグループ・ディスカッションにつなげました。



## ～On Becoming SSEAYP Facilitator ファシリテーターとして～



ファシリテーター8名(筆者右端、フィリピンから3名、カンボジア・日本から各2名、インドネシアから1名)

To be a SSEAYP Discussion Program Facilitator is serious endeavor. The job requires a lot of thinking and preparation, as well as flexibility and creativity in managing the program. It comes with a lot of responsibilities ranging from selecting topics, designing the discussion flow, to ensuring that the program has a meaningful impact on the youth and to the society.

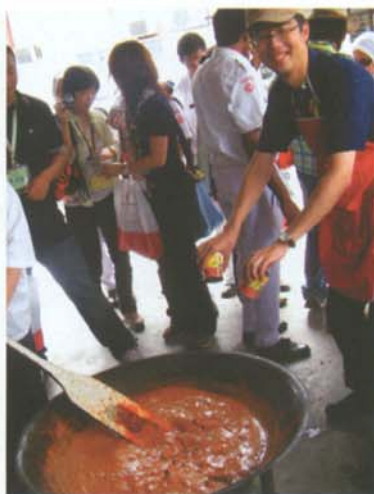
On the other hand, it was no less exciting than being a PY. For us ex-PYs, it was the closest re-enactment of our PY days. More than just a cruise, it was like a journey back to the wonderful past. It was also the best opportunity for us to give something back to the program that has given us a lot. The discussion itself was very rewarding, both mentally and emotionally. The sharing and exchanges with the PYs didn't only educate the mind but also the heart. In many ways, it was another life-changing experience. In a deeper reflection, there is more noble meaning and purpose in becoming a SSEAYP facilitator, other than just the opportunities, experiences and personal gains. That is, we were called to help the young leaders expand their horizons through the discussions; we were called to help build relationships among them; we were called to sow the seeds of friendship and understanding for tomorrow's world. And so we answered.

第33回「東南アジア青年の船」事業  
インフォメーショングループファシリテーター  
第26回「東南アジア青年の船」事業  
フィリピン参加青年

Jaime M. Collado, Jr.

ファシリテーターの仕事は大きな試みです。多くのことを考え準備し、プログラムを運営する柔軟性や創造性を要求されます。トピックを選定し、ディスカッションの流れを作り、その内容が青年や社会に有意義なインパクトを与えられるか等を考える責任があります。

それでも、参加青年に比べて楽しめないというわけでもありません。私たちのような既参加青年にとっては、まさに自分が参加青年だった日々の再現であり、すてきな過去の思い出への航海のようでもありました。私たちに多くのものを与えてくれたプログラムへの最高の恩返しのお礼でもありました。ディスカッション活動そのものは、知的にも感情的にも非常にやりがいのあるものでした。参加青年との意見交換・シェアリングを通して、知性だけでなく、心も豊かになります。多くの意味で、もう一度人生を変えるような体験でした。ファシリテーターの仕事には、単なる個人の機会・体験・収穫にとどまらず、もっと深い意味あいと目的があります。それは、「ディスカッションを通じて若いリーダーたちが視野を広げる手助けをし」、「彼らのネットワークの構築を手伝い」、「将来の友情や理解の種をまく」ために私たちは集まった、ということです。そして、私たちはそれをやり遂げました。



左:マレーシアにおける課題別視察でマレーシア森林研究所を訪問し、環境教育の現状を見学する(環境グループ)  
中:マレーシアにおける課題別視察でマレーシア赤新月社を訪問し、災害時の炊き出し訓練を体験する(ボランティアグループ)  
右:ディスカッションの成果を展示にまとめる(異文化理解グループ)



6 第33回「東南アジア青年の船」事業



内閣総理大臣表敬



出港時、いつまでもホストファミリーとの別れを惜しむ(インドネシア)



マレーシアでの歓迎夕食会で、民族衣装でスピーチをする田代裕昭管理官



ブルネイのホームステイで、ホストファミリーと伝統的な水上集落(カンボンアイール)を訪問する



フィリピンの課題別視察でポップミュージックセンターを訪問し、ステージで歌ってアイドル気分



愛知県でのプログラムで、名古屋城で甲冑を試着し戦国武将気分



富山県でのプログラムで、地元の方との料理交流



日本の課題別視察で講道館を訪問し、柔道を体験する



## 1か月後の気づき。 ～SSEAYPが教えてくれたこと～

第33回「東南アジア青年の船」事業 参加青年  
笠井 美香

SSEAYP (Ship for Southeast Asian Youth Program) を終えて1か月。SSEAYP SICKであることは実感しつつ、元の生活に徐々に戻りつつある自分が不思議である。SSEAYPを終えて変わったこと。変わったと実感できること…それは友だちが増えたこと。世界が小さくなったこと。世の中のニュースがリアルになったこと。無関心ではいられなくなったこと。思いやるひとが増えたこと。思いやってくれるひとが増えたこと。

自分が体験したことを考えてみる。51日間、ASEAN10か国の青年と船と一緒に旅をする。それはそれは不思議な空間で、みんなが同じ言語を話し、同じものを食べ、同じ服装をしている。少しのルールの下、たくさんの友人を作り、たくさんの経験をし、思い出を作って、別れを惜しんで、再会する日を心から待ち望む。夢のような世界だった。

そして現実にふと戻ってみる。それまでの生活で不満に思っていたこと、どうしても受け入れられないもの、嫌いなものを思い出した。期間中は、自分が不満に思っていたことがあるかと考えると、あまり思い出せない。

そして考えてみた。船には10か国もの違う国から来た青年がおり、小さい部屋では国籍の違うルームメイトと暮らさなければならなかった。それなのに、どうしてあれだけ不満なく暮らせたのか。

きっと自分の中で、外国人だから自分と違って当然だと思っていたこともあっただろう。

でも、期間中、私はできるだけ積極的に周りの人を知ろうと努力をしていた。違っていても、それを理解しようとして努力をした。そして、できるだけ自分を伝え

ようと努力をしていた。

それはこのプログラムに期待していたからかもしれないし、期間が限られていたからかもしれない。でも、一つだけ確実にいえ

ることがある。それは生きる姿勢が、今と、船の中でと違っていたこと。そう、私はいつも怠慢だったのだ。そう気づかされた。

きっと、常日頃から周りの人を知ろうとし、理解し、自分を伝えていけば、普段の生活もプログラム中と同じくらい幸せな日々を送れるのかもしれない。そう考えた。SSEAYPを終えて私がしなければならぬこと。それは、相手を知ろうとし、理解し、自分を伝えること。この努力を怠らないことだと思う。SSEAYPを終えて1か月、私は今そう思っている。

最後になりましたが、第33回「東南アジア青年の船」事業を支えてくださった内閣府の方、(財)青少年国際交流推進センターのスタッフの方々、Ex-PY(既参加青年)の皆さんに心から感謝申し上げます。本当にどうもありがとうございました。

3月18日(日)、第33回「東南アジア青年の船」事業報告会を行います。ぜひお誘いの上、ご来場ください。第33回ならではのSSEAYPを皆さんにお伝えします!!



マレーシア人、ベトナム人のルームメイトと(筆者中央)



## 第20回「日本・韓国青年親善交流」事業(韓国青年招へい)

平成18年11月1日～11月15日、韓国青年代表団30名が来日しました。今年度は地方プログラムとして北海道、秋田県、兵庫県を訪れ、各地で日本青年との交流や、日本文化の体験活動を行いました。

東京では表敬、課題別視察の他に事業開始20周年を記念した「日韓青年親善交流のつどい」が開催され、一般応募者、韓国派遣団OBから選ばれた日本青年と2泊3日の合宿プログラムを行い、互いに友好を深めることができました。



▲谷本龍哉内閣府大臣政務官と懇談



▲裏千家を訪問し日本の茶道を学ぶ



▲ホストファミリーの前で扇の舞を披露(兵庫県)



▲農家できりたんぼ作りを体験(秋田県)



▲日韓の文化を共に学んだ3日間(日韓青年親善交流のつどい)



▲ソフトバンク株式会社訪問



▲アイヌ民族の里で集合写真(北海道)



## 第28回「日本・中国青年親善交流」事業（中国青年招へい）

平成18年11月8日～11月26日、中国青年代表団の30名が来日しました。日本国内プログラムを東京都、地方プログラムを群馬県、京都府、島根県、函館市で行いました。訪問府・県・市の担当者や多くのIYEOの皆さんからの協力を得て、プログラムを実施することができました。例年参加者から要望の多い、政界、経済界の方との懇談や日本青年との業種別交流会、東京及び訪問地の特徴的な取組みを紹介する企業や施設の見学等を行いました。島根県でのホームステイでは、家族の方に温かく迎えていただき、言葉の壁を越えて交流できました。



▲ 歓送会にて中国青年代表団陶宏団長から記念品を受け取る平沢勝栄内閣府副大臣



▲ 経済同友会北城悟太郎代表幹事との懇談



▲ 業種別交流会でのディスカッション（企業経営グループ）



▲ ホストファミリーとこんなに仲良くなりました（島根県）



▲ 株式会社ベネッセコーポレーション東京本部を訪問し、民間企業が教育分野で果たす役割について学ぶ



▲ 水揚量5万トンを誇る函館のイカを使用した塩辛の製造過程を見学（函館市、竹田食品）



▲ だるまの産地、群馬県で絵付けの体験



▲ 秋の金閣寺を満喫（京都府）



青少年国際交流事業事後活動推進大会  
日本青年国際交流機構第22回全国大会  
第13回青少年国際交流全国フォーラム

香川大会

出会い、ふれあい、分かち合い  
～世界へ漕ぎ出せ!シュラシュシュ～



平成18年12月2日(土)～3日(日)、香川県の湯元ことひら温泉琴参閣にて、250名余の参加者及び協力者が参集し、日本青年国際交流機構第22回全国大会が盛大に開催されました。参加者は、少林寺拳法グループ総裁の宗由貴氏の基調講演「共生社会について考える～少林寺拳法の目的は“人づくり”にあり!～」を聴講後、香川県の郷土色豊かなテーマ別分科会でさまざまな体験をしました。2日目は、内閣府青年国際交流事業参加報告会で今年度派遣者の報告を聞き、その後、地域理解研修に参加したり、久しぶりに会った仲間との交流を深めたりしました。

香川大会実行委員長

平成9年度「日本・中国青年親善交流」事業(第19回)参加青年

井川 美紀

昨年12月に全国大会香川大会へお越し下さいました皆さん、御参加ありがとうございました。大勢の方楽しんでいただけたようで、私たち実行委員会のメンバーともども大変喜んでおります。

少人数のメンバーで運営していくのは大変でしたが、みんなのそれぞれ得意なことや個性を活かしたこと、チームワークがよく、大きないさかきもなくやっていけたことが、無事遂行できた大きな要因だったのではないかと思います。

その他、今振り返ってみて良かったと思う点、香川ならではの工夫をした点を挙げますと、協賛や広告に関して現金をいただくのは勿論ですが、うどんやお菓子など現物をいただいて、それらをお土産やプレゼントとして、また、休憩の間にお出ししたり、ウェルカムドリンクをさしあげたりしたことが大変好評だったようです。「お接待の気持ちが根底にあるのか、あたたかいおもてなしが嬉しかったです」、などとおっしゃっていただき、私たちも





嬉しくなりました。メンバーがそれぞれいろいろな企業やお店をあちこち駆け回って協賛を取って来てくれて、大変助かりました。

参加者集めに関しましては、全国大会で何をするか、その内容が一番大切ではあるけれど、香川県自体にも魅力を感じてもらわないと、参加して下さらないだろうな…と思い、香川PR

の記事をマクロコズムに掲載していただくことを思いつきました。1年間、「讃岐まんてがんでん通信」と題して、香川の情報をお届けすることによって、私自身も香川について再認識でき、そのことが全国大会で何をすればよいか考えるうえでも大きなヒントになったように思います。「讃岐まんてがんでん通信」をみなさんが読んで下さっていたかは分かりませんが、「今年度の全国大会は香川であるんだな」と覚えていただけていたなら、宣伝効果はあったのかなと思います。

以前、映画監督の大林宣彦氏が、「文化



▲少林寺拳法グループ総裁 宗由貴氏の基調講演

とは古里自慢。もともとそこにあるものを尊び、語る心。」とおっしゃっていました。全国大会において、私たちは本当に古里自慢をしていたように思いますが、それが他県の人にとっては面白いでしょうし、私たちにとっては誇りに思えました。これは今後、外国の方と接する時にもおおいに活かされるべき精神だと思いました。

さて、今年度の全国大会は愛知県で開催されます。

今度は何の心配もせず、ゆっくり楽しむことができるので今から楽しみにしています。皆さん、12月に愛知県でお会いしましょう!



▲心と体にやさしい護身術 少林寺拳法体験講座(分科会5)



▲「自分で作ったうどんのお味は？」 (琴参閣うどん教室にてうどん作り体験)



▲地域文化財理解講座in金丸座(分科会3)

第1日目・12月2日(土)

12:30~13:30	受付
13:30~13:50	開会式
13:50~14:00	表彰式
14:00~15:30	基調講演 テーマ「共生社会について考える～少林寺拳法の目的は“人づくり”にあり～」 講師 少林寺拳法グループ総裁 宗由貴氏
15:45~17:15	テーマ別分科会 1. 世界へ清々せ!国際人・空海のコミュニケーション力 2. 古来からの地域ボランティア「お接待」とは? 3. 地域文化財理解講座 in 金丸座 4. 農村歌舞伎鑑賞講座～かぶいて郷土愛を育もう～ 5. 心と体にやさしい護身術 少林寺拳法体験講座 6. IYEO会員のネットワークづくり 「私たちにできる国際協力について考える～活動事例紹介と情報交換～」
17:15~18:00	チェックイン及び休憩
18:00~18:30	写真撮影
18:30~21:00	懇親会

第2日目・12月3日(日)

～9:00	朝食及びチェックアウト
9:00~10:00	内閣府青年国際交流事業参加報告会
10:00~10:30	閉会式
10:30	解散
10:30～	地域理解研修 ①「琴参閣うどん教室にてうどん作り体験」 ②「金丸の郷(酒造)見学」 ③「金刀比羅宮参拝」 ④「うどん屋巡りツアー」



**青少年国際交流事業事後活動推進全国代表者会議  
推進委員会議  
日本青年国際交流機構第44回全国推進会議**

日時:平成18年12月1日(金)  
~2日(土)  
場所:湯元ことひら温泉琴参閣

内閣府、(財)青少年国際交流推進センター、日本青年国際交流機構の三者により、全国の代表者を召集して事後活動に関する上記会議が開催されました。内閣府からは平成18年度青年国際交流事業の経過報告が行われ、19年度の日本参加青年募集広報への取り組みについての説明がありました。(財)青少年国際交流推進センターは、内閣府からの委嘱事業及び都道府県IYEOへの活動奨励金交付要領などの説明を行いました。その後、議長および議事録署名人を選任し、野村事務局長が幹事会からの議事提案を行い、議事に入りました。

議長：武元九州ブロック幹事、石川三重県IYEO会長  
議事録署名人：遠藤中国ブロック幹事、赤木栃木県IYEO会長

**1. 議 事**

第1号議案 日本青年国際交流機構上半期会計報告  
1.1平成18年度上半期の報告

第2号議案 表彰制度  
2.1今年度の表彰者(別表参照)  
2.2平成19年度表彰(表彰手順の確認)

第3号議案 災害募金  
3.1大規模災害等への対応

**2. 報告事項**

(1) 都道府県青年国際交流機構の平成18年度上半期活動報告(10月末)及び予定

- ①平成18年度ブロック内の活動紹介
- ②特徴のある都道府県IYEOの活動紹介(東京、大分)
- ③その他

(2) IYEO広報

- ①運営委員による新ホームページの紹介
- ②リーフレット更新の説明、来年度のリニューアルの方向性について確認
- ③ターニングポイントⅡの発刊と頒布



開会式で挨拶する田中南欧子会長

(3) 日本青年国際交流機構全国大会

- ①第22回全国大会香川大会の当日予定
- ②第23回全国大会愛知大会の開催日程が、平成19年12月1日(土)・2日(日)に決定
- ③第24回全国大会は北信越ブロックで行う

(4) 財政基盤、寄付金

(5) 都道府県IYEO役員研修

(6) 「21世紀ルネッサンス青年リーダー招へい」事業

(7) 平成18年度上半期の国際的活動及び事業別活動報告

- ①SWYAAの活動報告:グローバル・フォト・コンテスト、SWYビデオなど
- ②第18回SSEAYPインターナショナル総会(ブルネイ)
- ③韓国派遣OB会による「日韓交流連絡会議」
- ④「中国派遣団同窓会」の活動



参加者の意見を訊く田中佐代子幹事

**平成18年度日本青年国際交流機構(IYEO)表彰者**

都道府県IYEO	氏名	参加事業
北海道青年国際交流機構	梅田 博実	第2回青年の船 教官
富山県青年国際交流機構	杉木 芳文	第16回青年の船 班長
福井県青年国際交流機構	幸道 嘉明	昭和51年海外派遣
大阪府青年国際交流機構	増田 健司	第11回青年の船





## ～きみに絵本を～

### 目の前にあることに精一杯を尽くし次のステップへ

京都府青年国際交流機構 地域交流部部长  
第16回「日本・韓国青年親善交流」事業参加青年  
高橋 三代子

「被災地の子供たちに何かしてあげられることはないだろうか・・・」「そうだ、絵本はどうだろうか？」

2005年8月、京都府IYEOのイベント“Aceh is Now?”

～教えてメックス!私達にできることは?～”で行われた、スマトラ沖地震最大の被災地であるインドネシア・バンダアチェのライドショー。印象的だったのが、傷つきながらも笑顔で遊びまわる子供たちの姿でした。それを見て、私たちが抱いた冒頭の思いが、今回の絵本プロジェクトの始まりでした。

京都府IYEO前会長である苗村玲さんのつながりで、(株)フレイベル館の絵本を無償でいただけることになり、インドネシア語に翻訳したシールを絵本に貼って贈ることを決めました。実際にいただいたのは、予想をはるかに超える1,000冊でした。日本語への翻訳は、大阪外国語大学のバンダアチェ支援サークルをはじめ他団体の方に、シールは東京都正礼シール印刷協同組合に、輸送は郵船航空サービス(株)、(株)日本航空より協力をいただきました。翻訳したシールの貼り付けは、新聞・チラシを通じて一般の方に協力を呼びかけ、70～80名の方に参加いただいて、一冊一冊を仕上げていきました。子供たちに笑顔をあげたいと始めたことですが、逆に私たちの方が子供たちから元気をもらっていると感じたのを覚えています。

結果的に、3か月ほどで約900冊を完成させ、バンダアチェに発送しました。現地には2006年6月に到着し、バンダアチェ周辺の幼稚園、小学校、図書館に無事届けられました。実際に絵本を手にして笑っている子供たちの写真を見たときは、言いようのない感動を覚えるとともに、子供たちの幸せな未来を願わずにはいられませんでした。

同じテーマで活動を継続するのは難しいものですが、幸運なことに、絵本の発送が終わった後、次のステップを経験できました。絵本のシール貼りをする間に、「現地を直接見てみたい」という思いが強くなり、2006年5月に私を含む京都IYEO会員

3人でバンダアチェを訪問したのです。輸送上の都合で、絵本を直接子供たちに手渡すことはできませんでしたが、幼稚園と小学校、大学等を訪問し、被害にあったときの様子を聞きました。

その後、京都府内の中学校で、国際理解教育の一環として講演する機会をいただき、中学1・2年生に、絵本を贈る活動や、現地を訪問したときの体験について話しました。バンダアチェの子供たちの「日本に生まれて幸せですか?」という非常にストレートな質問を生徒に伝えることもできました。その後の授業で、彼らは質問の答えを懸命に考え、バンダアチェの子供たちに千羽鶴を贈ったそうです。多少なりとも「つなぐ」ことに貢献できたように思います。自分たちの経験を地域の中学生に還元するのは、今までにしたことのない貴重な経験でした。彼らが講演をきっかけに国際交流に興味を持つ可能性を考えると、こういう活動に今後力を入れていくべきだと感じました。

また、個人的にですが、一昨年イベントから絵本の発送までをまとめた8ページのミニブック『きみに絵本を』を制作しました。堅い、難しそうといったイメージを持たれがちなNPO活動や国際貢献を、かわいらしいメッセージブックの形にすることにより、一般の方に、私にも何かできるかも、やってみたい!と思ってもらえるのではという期待を持って企画・制作しました。多方面の方から温かい言葉をいただき、IYEOの活動を広報する一つの手段としての可能性を感じました。機会があれば第二弾を作りたいと思っています。

最後に、この活動に関心を寄せてくださった皆様、ご協力いただいた皆様にお礼申し上げます。ありがとうございました。

#### 会計報告

会計報告		
収 入	IYEOスマトラ島沖地震復興募金	¥66,337
支 出	アチェ視察 記録機材 (レンタルビデオ・テープ)	¥18,000
	翻訳必要経費	¥10,000
	会議室使用料	¥3,000
	ラベルシート購入費用(追加分)	¥19,110
	輸送費(追加分)	¥12,900
	雑費(お礼状送料・イベント経費)	¥3,327
支出合計		¥66,337
残 高		¥0





第4回「東南アジア青年の船」事業参加青年  
金城学院大学教授 足立 文彦さん

名古屋の金城学院大学現代文化学部国際社会学科教授の足立文彦先生にお話を伺いました。足立先生は第4回「東南アジア青年の船」事業に参加され、その後、第14回「東南アジア青年の船」事業ではナショナル・リーダーとして乗船されました。1995年には、第2回「国際青年育成交流」事業(タイ派遣団)の団長を務められ、1999年には、第26回「東南アジア青年の船」事業のアドバイザーとして青年の指導にあられました。その後も、「東南アジア青年の船」事業の事前研修では講師として御協力いただいています。「東南アジア青年の船」事業への参加は「ターニングポイント」というよりは「ディープニングポイント」だったとおっしゃる先生に、船での思い出や、最近出版された著書「人間開発報告書を読む」について語っていただきました。

**「東南アジア青年の船」事業への参加が「ターニングポイント」となったというよりはむしろ「ディープニングポイント」だったそうですね。**

そうですね。私は1968年から1年間アメリカに留学し、開発経済について学びました。留学後は、半年間かけてアメリカ国内とヨーロッパを旅行したのですが、「開発」というと、アメリカでは対象地域がラテン・アメリカであり、ヨーロッパではアフリカのことを指していることに気づきました。では、日本はどこを対象とすべきかとなると、やはりアジアだろうなと思いました。日本がアジアの貧困や開発の問題にしっかり取り組めば、他の国々も日本の主張に耳を傾けるだろうと考え、アジアにおける日本の役割について関心を持つようになりました。

その後、大学院で開発経済学を学び、教職に就いた翌年、30歳のときに、第4回「東南アジア青年の船」事業(以下、「東ア船」)に参加することが

できました。大学では、開発経済や東南アジアについて教えていたものの、現場の実情についてよく知らないまま授業をするのもいかなものかと思っていましたから、東ア船に参加できたことは私にとっては大変よい機会となりました。

私の場合、自分が進むべき方向性は「開発経済」「東南アジア」と既に決まっていたので、東ア船での経験は「ターニングポイント」というよりは「ディープニングポイント」となったのです。事業参加中は、すべてよい思い出ばかりで、いろいろなものを見ては、「講義のネタが手に入ってきた」と思って喜んでいました。大学側が2か月間も休暇をくれたのは、本当にありがたいことでした。

こうして私の中で、東南アジア=研究+教育+国際交流という図式ができてきました。

**プログラム参加中に印象的だったことは何ですか。**

インドネシアのジャカルタでホームステイをしました。今は、参加青年が一人だけでホームステイに行くことはありませんが、当時、私はなぜか一人でホームステイをしました。行ってみると、ホストファミリーの親戚が大勢集まっていて驚きました。地方からジャカルタに出てきて成功した人のところに、親戚縁者が集まるのが普通のようなですね。これこそ相互扶助(ゴトン・ロヨン)の精神だと思いました。

また、フィリピンに寄港した時には、港の近くのスモークマウンテン(ごみの山)を見て、ショックを受けました。日本でもごみの埋立地はありますが、日本の場合はごみがたくさんあるだけです。でも、フィリピンではそこで生活をしている人もいることに驚かされました。同じマニラ市内に、外車が何台も停めてあるような豪邸に住める人がおり、また、ごみの山に住んでいる人もいるという貧富の格差が衝撃的でした。



### 「海に薪を採りに、山へ魚を獲りに行く」

船内で行われた船長の講話で印象的な話がありました。南太平洋のある地域の話で「おじいさんは海に薪を採りに、おばあさんは山に魚を獲りに行きました」というものがありました。こんな一文を聞くと、日本人は普通、「おじいさんは山へ薪を採りに、おばあさんは川へ…」の間違いではないかと思えますよね。海で薪をとることなどないし、山に魚がいるはずがないと思うのです。

でも、その地域では、竜巻がおこって魚が海から巻き上げられ、山にぶつかった竜巻の置きみやげで魚が山に落ちていたことがあったし、難破船などの木っ端が海辺に流れてきて、海で薪が拾えたこともあったのだそうです。広い世の中では自分の常識ではありえないと思うことでも起こりえるので、いつも新鮮な感覚で学ぶ姿勢を忘れないようにという内容でした。

### 開発経済を専門とされるきっかけは何でしたか。

学生時代は都市問題に関心がありましたので、大都市の抱える問題について勉強したいと思って、留学中はニューヨークと東京の比較研究を心掛け、これを卒業論文にしました。ところが、当時は「都市経済学」や「都市社会学」といった分野を本格的に学べるどころはなく、そのような講座の求人ほとんどありませんでした。指導教授から、昔の植民政策論が姿を変えた「開発経済学」や「東南アジア

経済論」なら講座があるとアドバイスを受け、勉強することにしました。

また、私は自分のすることが誰かの役に立つという経験をしてみたいと思っていました。特別に何かをしてあげるといった感覚ではなく、自然な形で誰かの役に立ちたかったのです。私は1968年にアメリカの大学へ留学しましたが、そのころは留学する学生がごくわずかという時代でした。私も新聞社の奨学金を得てようやくアメリカに行くことができたのです。当時は成田空港はありませんでしたから、羽田から出発したのですが、その際にサークルの友人が20~30人も見送りに来てくれました。私は知りませんでしたが、アメリカに留学する私を見て刺激を受け、自分もがんばろうと思った後輩がたくさんいたのだそうです。それを聞いて、本人は自分のために一生懸命に何かに取り組んでいるだけなのに、その姿を見て励まされる人もいるのだと気づきました。ですから、各自がそれぞれ置かれた状況でがんば

ることが大切だと思います。

自分のためだけに努力しているつもりでも、その姿が周りを触発するという「地域おこし」の事例として、目下研究中の大分県の「一村一品運動」(1979~2003)がありますね。地域を発展させようにも、地理的な条件が不利だから、企業を県外から誘致できないなどといって嘆くのではなく、大分県は各市町村が一品ずつ地元の特産品を育てて、地域づくりに貢献したんですね。今では、干しいたけやカボスなどは全国に通用するブランドになっています。

また、徳島県の例として、高齢化の進んだ過疎の村なのに、地元のもみじの葉などを集めて東京や大阪の高級料亭などに販売し、大成功を収めているところがあります。お米や野菜などとは違って、木の葉やハーブ類は重くありませんので、お年寄りでも簡単に集められるのです。各地域がこうして賢明に取り組んでいる姿は、国内のみならず外国でも刺激になっています。私が



▲ジャカルタでのホームステイの際にホストファミリーとともに(1977年)





タイに行ったときにも、日本のこうした事例を紹介し、自分の地域にあるもので何かできないか探してみるとよいと提案できました。例えば、チェンマイには絹製品や竹細工、象の木彫など民芸品がたくさんありますから、そうしたものをうまく活用していくことができるかもしれません。

**1990年以来、国連開発計画（UNDP）が発行してきた「人間開発報告書」の全体像をつかむことのできる解説書「人間開発報告書を読む」を昨年出版されましたね。**

経済学部のない女子大学で開発について教えているうちに「人間開発」の重要性に開眼しました。これまで、人間の豊かさとはGNPなどに表されるように、所得の多さのみで計ってきました。しかし、経済的に豊かになっても、全ての面での豊かさにつながらないと感じる場合がでてきます。豊かさを実感するためには、健康で長生きできること、教育を受けられること、人間らしい生活ができることも重要な要素です。こうした人間の選択の幅を広げること

が「人間開発」です。国連開発計画では、各国の人間開発の程度を図る指標として「人間開発指数（HDI: Human Development Index）」を使ってきました。HDIは各国の達成度を長寿、知識、人間らしい生活水準の3つの分野で計っています。

今回発行した「人間開発報告書を読む」では、上記の点をふまえ、各年版の要点を簡潔にまとめています。「人間開発の財政（1991）」、「人々の社会参加（1993）」、「人間の安全保障（1994）」、「貧困と人間開発（1997）」、「ミレニアム開発目標（MDGs）達成に向けて（2003）」、「岐路に立つ国際協力: 不平等な社会での援助、貿易、安全保障（2005）」などの項目のうち、皆さんがまず、関心を持ったページから読み始めてもらえたらと思います。

特に読んでいただきたいところをひとつだけ挙げると、「ミレニアム開発目標」の章ですね。日本では当たり前になっている飲み水の質、基礎教育、保健衛生といった問題で世界が依然としてなやまされている現状を自覚することが大切だと思うのです。グローバル化が叫ばれて久しいですが、グローバル化の時代に外国と交流するために所持すべき、地球市民のパスポートが「人間開発報告書を読む」だと考えることができます。「宇宙船地球号」という言い方をしますが、地球をひとつの大きな「船」と考えてみるとよいでしょう。船に荷物を積み込む時、どちらか

の側に偏って積んだりすると、船は沈んでしまいますね。現在の世界は、いろいろなものがアンバランスになってしまっていて、バランスの悪い荷物の積み方をした船のようになっているのです。授業の際にも学生たちによく話しますが、世界には1日1ドル（コンビニのおにぎり一つ!）以下で生活する人が十何億人もいるのです。世界がこのような状態にあることをまず自覚することが大切で、こうした意識は、今後、何らかのきっかけで国際貢献する若者を育むと思います。最終授業では、「人間開発報告書を読む」の内容を1時間程度にまとめたPower Pointを使って説明し、「このままでは宇宙船地球号が危ない」というメッセージを伝えるようにしています。

**金城学院大学の足立先生のHPに、アマルティア・A.K.セン教授は最も尊敬する研究者の一人だと書いておられますね。**

アマルティア・セン教授は厚生経済学や開発経済学の研究で1998年ノーベル経済学賞を受賞しました。インド人であるセンは子どものころにベンガル州での大飢饉を目の当たりにしたため、絶望的な貧困状態をなくしたいと経済学を志し、貧困問題解決のためにさまざまな取り組みを行いました。

「人間開発報告書を読む」の第13章「ガバナンスと人間開発」にも書かれていますが、インドでは、独立と民主的統治が確立されて以来、飢餓が起こって





▲ブルネイの水上市落でくつろぐナショナル・リーダー（1987年）

いないのに対し、社会主義国家の建設を急いだ中国では、大躍進政策を強行した1958年から1961年にかけて発生した飢饉で、約3000万人が命を落としました。民主主義国は政府に国民生活の安全保障を実現する強力な動機付けがあるため、飢饉のような人間の生活を脅かす大災害を避けたり、突然の景気後退に対処したりすることに

優れていると言えます。このように、民主的なプロセスは人間開発の側面と関連があるとした点もセンの貢献だと言われています。

**最後に、参加青年へのメッセージをお願いします。**

内閣府の交流事業に参加すると、自分が訪問した国や地域に対する関心がいっそう強くなることと思います。

そうした国々についての報道があれば、めざとく見つかりますし、新聞記事なども興味を持って読むでしょうから、ますます知識が増えて理解も深まるでしょう。

また、これから交流事業に参加される方は、相手国の意向も尊重して、訪問国活動を楽しんでいただきたいと思います。受け入れ側が見せたいと思っているものを、まず、感謝して見せていただくことが大切です。日本の若い青年の中には、非常に問題意識の強い人がいて、先方があまり見せたくないと思っているような場所をぜひとも訪問したいと希望する人もいます。最初からそのような希望を出すことは相手を当惑させるので、相手国についてよく勉強し、受け入れ側の信頼を得てからこちらの真意と希望を伝えるとよいでしょう。ぜひ、現地の若い人と話をする機会を設けてください。

**インタビューを終えて**

女子大学で教えておられるだけあって、女性の興味関心をひくような楽しいお話をしてくださいました。取材にあたって、足立先生が団長を務められた1995年「国際青年育成交流事業報告書」の団長報告を読み返すと、「旅行中、よく団員が「先生、疲れませんか、ストレスたまりませんか」といたわりの声を掛けてくれましたが、『日本にいるときに比べたらストレス・ゼロだよ』と答えて悠然としていました」という一文がありました。まさにこの文章の通り、先生のゆったりとした和やかな雰囲気の中で、難解なはずの経済学のお話を楽しく聞かせていただくことができました。

足立文彦先生の著書

**「人間開発報告書を読む」**

株式会社 古今書院 定価2800円(税別)

目次より

- 序章 人間開発の基本指標
- 第1章 人間開発の概念
- 第2章 人間開発の財政
- 第3章 人間開発の地球的側面
- 第4章 人々の社会参加
- 第5章 人間の安全保障
- 第6章 ジェンダーと人間開発
- 第7章 経済成長と人間開発
- 第8章 貧困と人間開発
- 第9章 消費パターンと人間開発
- 第10章 グローバリゼーションと人間開発
- 第11章 人権と人間開発
- 第12章 新技術と人間開発
- 第13章 ガバナンスと人間開発
- 第14章 ミレニアム開発目標(MDGs)達成に向けて
- 第15章 この多様な世界で文化の自由を
- 第16章 岐路に立つ国際協力・不平等な社会での援助、貿易、安全保障





## CENTERYE「国際理解教育支援プログラム」

(財)青少年国際交流推進センター(CENTERYE)は、青少年国際交流事業の実施、青少年国際交流に関する啓発、情報提供、支援などを通じて、社会の各分野において国際化時代にふさわしい青少年の育成を目標としています。その具体的な活動のひとつとして、内閣府青年国際交流事業に参加した在日外国青年等を日本の学校に派遣する「国際理解教育支援プログラム」を平成16年度から始め、平成18年度は6回実施します。本プログラムの利用・参加を希望する方は [uesp@iyeo.or.jp](mailto:uesp@iyeo.or.jp) までお問い合わせ下さい。

### 平成18年度の実績

	日時	学校名	対象		派遣された外国青年
第1回	平成18年 5月31日(水)	小平市立 鈴木小学校(東京都)	3年生34名	国際理解教育 セミナー	Chew Kim Soon(マレーシア)SSEAYP26
第2回	平成18年 7月18日(火)	中央プラッツ 高等学院(東京都)	8名	グローバルセン ス科目	Ahmed Kamel Sedik Ahmed(エジプト)SWY14
第3回	平成18年 9月29日(金)	宇都宮市立 新田小学校(栃木県)	3年生90名と 保護者 合計200名	イベント (親子レクリエー ション)	Chew Kim Soon(マレーシア)SSEAYP26
					Jaime Collado(フィリピン)SSEAYP26
					Meghan Frazer(カナダ)SWY17
第4回	平成18年 11月1日(水)	小平市立 鈴木小学校(東京都)	5年生40名	料理交流	Chew Kim Soon(マレーシア)SSEAYP26
第5回	平成19年 1月29日(月)	岐阜県立 郡上高等学校(岐阜県)	62名	岐阜県英語力 育成支援事業	Jaime Collado(フィリピン)SSEAYP26
					Mauricio Kugler(ブラジル)SWY14
第6回	平成19年 2月26日(月) 予定	都立ろう学校 (東京都)		総合的な学習 「料理で国際交流」	Jaime Collado(フィリピン)SSEAYP26
					Chew Kim Soon(マレーシア)SSEAYP26



国際理解教育セミナーでマレーシアについて紹介(小平市立鈴木小学校)



親子レクリエーション(宇都宮市立新田小学校)



料理を通じて国際交流(小平市立鈴木小学校)



英語力向上プログラム(岐阜県立郡上高等学校)

### International Understanding Education Support Program CENTERYE 国際理解教育支援プログラム概要

- 1 目的**  
内閣府青年国際交流事業に参加した在日外国青年等を、日本の学校に派遣し、国際理解教育を推進する
- 2 事業の概要**  
(1) 国際理解を目的に実施される授業に参加する外国青年の紹介、派遣  
(2) 学校での活動内容などプログラム全体の企画、相談に応じる
- 3 派遣される外国青年**  
国際理解教育に対して関心と理解があり、簡単な日本語ができ、自国について紹介することができる国際交流事業の既参加外国青年等
- 4 経費**  
会場までの往復の交通費等の実費、ボランティア保険加入料、その他プログラムを実施する上での必要経費は当センターが負担



## 第5回「青年の船」35周年記念大会報告

大会実行委員長 崖 登司之

「青年の船」事業が明治維新100年を記念して始められたこともあり、維新の魂を今に引継ぐ山口県の萩市「萩本陣」において11月18日～19日、35周年記念大会が開催されました。管理部員、海外団員3人を含め、全国津々浦々から総勢91名が集合。

第5回「青年の船」団員の年齢構成は団塊の世代を真ん中にしており、一般団員が還暦を迎えだした年度にもなります。今年度の4月より暫次65歳までの雇用延長が制度化された年でもありますが、集まった団員の皆さんは、かつての定年や還暦のイメージを感じさせないほど若く、顔つやもよく、元気そのものでした。

大会は、故福田団長、村井船長他14名の物故者に

黙祷を捧げた後、管理部の木曾さんの「元気で50周年大会まで参加」の決意表明の挨拶に続き、萩市助役の維新に絡む地元紹介や安倍新総理の祝電、団員による琴の演奏や奉納居合いなどをはさみ、おこぜ料理を味わいながらの歓談で盛り上がりました。続いて部屋での交流、また、宿の配慮による無料バスでの翌日の市内観光などで思い思いの交流を新たにしました。5年後の北海道での大会を楽しみに再会を約し、懐かしい温もりと新しい感動を土産にしました。

今回、仕事の都合などでやむなく参加できなかった多くの方からも手紙やEメールで「皆様によろしく」の伝言とともに、大会の成功を祈っていただき、本当にありがとうございました。

### お礼状からの抜粋

- \*大内氏以来の国際感覚の伝統、まさに船の大会にふさわしい開催地でした。御夫婦での参加も目立ちました。定年を控え、仕事一途から自由度が増してきたことの表れかもしれません。(管理部 木曾亭二郎さん)
- \*全国から馳せ参じた仲間とともにゆっくりと旧交を温めることができました。中身がたっぷりと充実していて、準備への皆様の気合の入れようがよくわかりました。(加藤義讓さん)
- \*萩という伝統ある地にて「青年」に戻り、楽しい週末を過ごせ、元気が出てきました。(早坂慶子さん)





## 国連の記念日

3月・4月の記念日(計8日のうち4つを抜粋)

3月・4月		
3月	8日	国際女性の日
	22日	国連水の日
	23日	世界気象の日
4月	7日	世界保健デー

### 国際女性の日 (International Women's Day) 3月8日

1975年の国際女性年に国連は「国際女性の日」を制定しました。その目的として女性に対する差別撤廃と、社会開発への完全かつ平等な参加に向けた環境整備に貢献することを各国に訴えかけることを挙げています。

### 「国際女性の日」制定の背景

きっかけは1857年3月8日、ニューヨークの繊維工場で働く女性たちが非人間的な扱いと低賃金の改善を要求して抗議したことに端を発しています。2年後の3月に最初の労働組合を結成し、再度待遇改善を要求。そして1908年3月8日、繊維工場で働く1万5,000人の女性たちがニューヨーク市内を「パンとバラ(Bread and Roses)」をスローガンにデモ行進をしました。パンは経済的な保障、バラは生活の質の向上を表し、労働時間の短縮、賃金アップ、女性の選挙権、そして児童労働の禁止を要求したのです。

### 世界の女性の現状

#### ◇出産可能年齢にある女性を取り巻く現状

- 世界中で年間約52万9,000人の女性が妊娠・出産が原因で亡くなっています。これは世界のどこかで毎分1人の女性が亡くなっているのに相当します。
- 妊娠・出産が原因による死亡の99%は開発途上国で起こり、出産可能年齢にある女性の主な死因となっています。

#### ◇思春期・若者を取り巻く現在の状況

- 現在の地球上の人口65億人のうち、約半分を25歳未満の若者が占めています。
- 20歳までに産する女性の割合を教育水準別に見ると、就学経験のない女性のうちアフリカで61%、中南米で58%、アジアでは50%が妊娠します。中等教育以上まで教育水準が上がると、アフリカ27%、中南米23%、アジア22%とその割合は半分以下に減少します。
- 1日約1万4,000人が新たにHIVに感染していますが、その半分は15~24歳の若者です。世界全体でHIV/エイズと共に生きる若者のうち62%が女性です。



▲CJOICFP 2005年 インドネシア ウェスト・ヌサ・テンガラ州 ロンボク県 母子保健プロジェクト地区にて

### 女性や妊産婦の健康と権利を守るために

~JOICFP (ジョイセフ) の活動紹介

ジョイセフは人口と家族計画・母子保健・HIV感染予防を含む「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ(性と生殖に関する健康と権利)~特に女性や妊産婦の健康と権利を守るための活動」分野の国際協力を推進する日本のNGOです。ジョイセフの考える「家族計画」とは、国・地域に関わらず、女性たちが望む時に欲しい数の子どもを健康な状態で産めるための環境をつくること。一人でも多くの女性とお母さんたちが、健康な生活を送れるために、ジョイセフはアジア・アフリカ・中南米の開発途上国を中心に、様々な支援活動を行っています。

~ホワイトリボン運動で世界中の母と子を助めよう~

White Ribbon Alliance  
世界で妊娠や出産が原因で命を失った女性がいれば、その数は1分にひとり。

### ジョイセフの活動に協力するために

~ホワイトリボン運動~

母と子の健康といのちを守る運動です。1999年に作られた国際的なネットワーク(ホワイトリボン・アライアンス)が推進しています。グローバル事務局は米国のワシントンD.C.に置かれ、現在、世界76カ国から700以上の国際機関やNGO、支援団体などが参加しています。白いリボンは妊娠や出産により死亡した女性たちへの哀悼の意が込められています。「安全な母性」を推進する国際的なシンボルです。

### 〈協力方法〉

ジョイセフでは寄付を目に見える形で有効に使ってほしいと、AIDS予防啓発活動、再生自転車や学用品を送る活動等の目的別に募金メニューを設置しています。またネット上で様々なチャリティ・ショップの運営やイベントのボランティアも随時募集しています。詳細はジョイセフにお問合せください。

(財)ジョイセフ(家族計画国際協力財団)

TEL:03-3268-5875 [電話受付:月~金10:00~18:00]

FAX:03-3235-7090

E-mail:info@joicfp.or.jp URL: http://www.joicfp.or.jp/



▲CJOICFP 2003年 ブルキナファソ 村との間が10km以上離れている地域で再生自転車は大活躍



## SSEAYPインターナショナル第19回総会 (SIGA) が、 初めてカンボジアで開催されます!

### The 19th SSEAYP International General Assembly in Cambodia

「東南アジア青年の船」事業アセアン各国事後活動組織と日本青年国際交流機構で組織しているSSEAYPインターナショナルの第19回総会 (SIGA) が、初めてカンボジアで開催されます。場所は、世界遺産アンコールワットで人気の高いシェムリアップです!

「東南アジア青年の船」事業の既参加青年だけでなく、他事業の参加者、また、ご家族やご友人、一般の参加もできますので、ぜひ多くの方のご参加をお待ちしています。



- 日程:** 平成19年4月28日(土)~5月1日(火)  
**場所:** カンボジア、シェムリアップ(アンコールワット)  
**テーマ:** "SSEAYP for Cooperation and Development"  
**プログラム(予定):** 4月28日 参加者到着  
 4月29日 開会式、総会、ワークショップ、  
 歓迎夕食会  
 4月30日 アンコール遺跡見学、歓迎夕食会  
 5月1日 参加者帰国

#### 参加費:

プログラム参加費、プログラム中の食費・宿泊費、シェムリアップ空港から会場までの交通費が含まれます。この他に若干の事務経費が必要となります。

早割価格(4月6日まで)

US\$175

通常価格

US\$195

6~12歳の子ども

US\$95

6歳未満の子ども

無料



#### 航空券:

カンボジア、シェムリアップ空港への往復航空券は各自ご用意ください。(プノンベン空港ではありませんのでご注意ください。) IYEOを通じての購入を希望される場合は以下の問い合わせ先までご連絡ください。なお、ゴールデンウィークのため混雑が予想されます。航空券はお早めにお買い求めください。

#### 申込み方法:

参加ご希望の方は詳細資料を以下の問い合わせ先からお取り寄せください。申込みは各国同窓会を通して行われますので、個人でカンボジアへ直接申し込まれませんようお願いいたします。

#### 問い合わせ先:

【IYEO SIGA係】

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町2-35-14  
 東京海苔会館6階

TEL: 03-3249-0767 FAX: 03-3639-2436

E-mail: [siga@iyeo.or.jp](mailto:siga@iyeo.or.jp)

担当: 白鳥・渡辺

\*写真は2006年にブルネイで実施された第18回SIGAのものです。

## ~第33回「東南アジア青年の船」事業報告会~

**日時:** 2007年3月18日(日) 13:00~16:30(受付開始12:30)

**場所:** 国立オリンピック記念青少年総合センター カルチャー棟 小ホール

**参加費:** 無料

#### 主催:

内閣府政策統括官(共生社会政策担当)

財団法人青少年国際交流推進センター

日本青年国際交流機構(IYEO)

#### アクセス:

小田急線「参宮橋」駅下車徒歩約7分

地下鉄千代田線「代々木公園」駅

下車徒歩約10分

#### 問い合わせ先:

財団法人青少年国際交流推進センター

(担当: 白鳥、田畑)

Tel: 03-3249-0767 Fax: 03-3639-2436

E-mail: [sseaypreport@iyeo.or.jp](mailto:sseaypreport@iyeo.or.jp)

URL: <http://www.iyeo.or.jp/sseayp/report2006/>





## 内閣府青年国際交流事業既参加者の皆様へ

「内閣府（総理府・総務庁）青年国際交流事業参加者の意識調査」への御協力をお願い

2月23日付で、内閣府青年国際交流事業既参加者の皆様に標記の調査票をお送りしました。  
返送締切り日は3月19日（月）です。ぜひとも御協力下さり、期日までに投函くださるようお願いいたします。

## 「ターニングポイントⅡ」をもう読みましたか？

内閣府（総理府／総務庁）の国際交流事業に参加すると、その後の人生はどのように変わのでしょうか。このプログラムに参加した先輩はどのような分野で活躍されているのでしょうか。先輩方のライフストーリーを読んで、今後の活動の指針を見出してみませんか。

### 「ターニングポイントⅡ」目次から

青少年育成へのかかわり——それは、海外派遣が原点——	酒井 洋幸（第9回「青年海外派遣」）
海外視察から海外支援活動へ	菊地 喜正（短期第5回「青年海外派遣」）
国際交流活動の感動を求めて	坂田 清一（第11回「青年の船」）
我が家のにっぼん丸	豊岡正仁・陽子（第12回「青年の船」）
ふるさとから広がる交流の旅	尾身 伝吉（第12回「青年の船」）
「世界青年の船」こそ我が「原点」	伊豆 美沙子（第1回「世界青年の船」）
タンザニア伝統芸能による貧困からの自立	坂西 佳子（第2回「世界青年の船」）
私の人生のターニングポイント	池上 清子（第1回「東南アジア青年の船」）
強く魅力的なアジアへ	亞洲奈 みづほ（第21回「東南アジア青年の船」）



頒布価格：1部 ¥1,000

送 料：2冊まで1箇所につき¥80、10冊以上は送料無料

ご希望の方はe-mail: [macrocosm@iyeo.or.jp](mailto:macrocosm@iyeo.or.jp) または tel:03-3249-0767まで送付先をお知らせください。  
代金の振込先は以下の通りです。入金確認後、発送します。

郵便振替口座：00140-3-73972 加入者名：日本青年国際交流機構

### Air-Netを購読しませんか？

Air-Net（「航空機による海外派遣」事業既参加青年のためのメールマガジン）を立ち上げて1年半がたちました。月に2～3回送信する情報を約360名の購読者が楽しんでいます。  
詳しくは <http://www.iyeo.or.jp/Air/airnet/gaiyo.htm> をご覧ください。



### お詫びと訂正

マクロコズム2007年1月号（Vol.74）P.14のシドニーとブリスベンの位置が入れ替わっていました。  
お詫びして訂正します。

### 今月号の表紙

Sizzling Fresh Seafood by the Waters

（水辺で新鮮な海の幸をジュージューと調理）

Lee Siok Koon

（Singapore, SSEAYP 32）



### 編集後記

編集者にとって「いつもマクロコズムを読んでいます」と声をかけてもらうことほどうれしいことはありません。皆さんからの感想、コメント、同窓会情報など大歓迎です。

宛先は、e-mail: [macrocosm@iyeo.or.jp](mailto:macrocosm@iyeo.or.jp)

fax: 03-3639-2436 です。お待ちしております。（ふ）

## MACROCOSM 3月号 Vol.75

2007年3月1日発行（隔月発行）

編 集 マクロコズム編集委員会

発 行 財団法人 青少年国際交流推進センター

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町

2-35-14 東京海苔会館6階

TEL:03-3249-0767 FAX:03-3639-2436

e-mail: [macrocosm@iyeo.or.jp](mailto:macrocosm@iyeo.or.jp)

URL: <http://www.centerye.org> (CENTERYE)

<http://www.iyeo.or.jp> (IYEO)

編集協力 内閣府政策統括官（共生社会政策担当）

日本青年国際交流機構（IYEO）

定 価 220円（本体210円）

印刷所 株式会社 長 正 社

TEL:03-3531-1369 FAX:03-3531-3235



SINCE  
**1884**  
Pioneer Of  
Cruise



「クルーズイヤー2007」  
の公式スポンサーとして  
クルーズを盛り上げる  
イベント・キャンペーン  
に協賛しています。



にっぽん丸



お客さままでのお喋りだって、  
立派なおもてなしだと思おう。

にっぽん丸 ホテルサービスデスクールー 田中沙織

なにしろよく笑う人である。そして、少々なことではへこたれない完全なプラス思考。それが自分の一番の取り得なのだと言っている彼女は、田中沙織、にっぽん丸の船内ショップ“ブティック・アンカー”のスタッフだ。「ダイニングの仕事をしていて、仕事にお客さまと話し込んでしまっ、上司や先輩からよく叱られました。でも、お客さまから声をかけていただくと、嬉しくなっていく…(笑)」なのだ。そんな彼女が船内ショップに異動してきたのが2年ほど前のこと。元来の話し好きだけにここでの彼女は、まるで水を得た魚のよう。そんな田中だからこそ、お買物目的ではなく、彼女のお喋りを楽しみにショップを訪れるお客さまも多い。「もちろんショップの売上げをすることも大事です。でも、もっと大事なことがあります。それはお客さまに喜んでいただくこと。ですので、お喋りも尽くして、たとえ何もお買い上げにならずに帰られたとしても、そのひと時がお客さまにとって満足いくものであれば、私はいいと思うんです」。なるほど、いかに元気印の田中らしい肩肘張らぬおもてなしだ。

もてなしにも、品質があります。にっぽん丸の船旅



<p><b>春の横浜ワンナイトクルーズ</b></p> <p>横浜→横浜 2007年3月28日(水)～3月29日(木) 45,000円</p>	<p><b>新緑の新宮・八丈島クルーズ</b></p> <p>横浜→新宮→八丈島→横浜 2007年4月12日(木)～4月15日(日) 135,000円</p>	<p><b>瀬戸内海・屋久島クルーズ 名古屋発着</b></p> <p>名古屋→(瀬戸内海)→屋久島→名古屋 2007年4月16日(月)～4月19日(木) 132,000円</p>
<p><b>神戸/横浜カジュアルクルーズ 神戸発・横浜着</b></p> <p>神戸→横浜 2007年4月23日(月)～4月24日(火) 30,000円</p>	<p><b>アクティブクルーズ 前途悠遊</b></p> <p>横浜→神津島→横浜 2007年4月25日(水)～4月27日(金) 88,000円</p>	<p><b>2008年世界一周クルーズ 横浜・神戸発着</b></p> <p>横浜・神戸発着(各101日間) 海外17カ国24港 2008年4月7日(月)～7月17日(木) 2,980,000円</p>

そのほかのクルーズもご用意しております。表示の代金はステートルームC1室を2名でご利用の場合の大人お一人様・国内クルーズは消費税込の旅行代金です。



商船三井客船

〒107-8532 東京都港区赤坂1-9-13  
三井物産ビル5F  
MOPASは商船三井客船の登録です。

お問合わせは 各クルーズ取扱旅行会社  
またはMOPASクルーズデスクへ

クルーズデスクフリーダイヤル  
☎0120-791-211

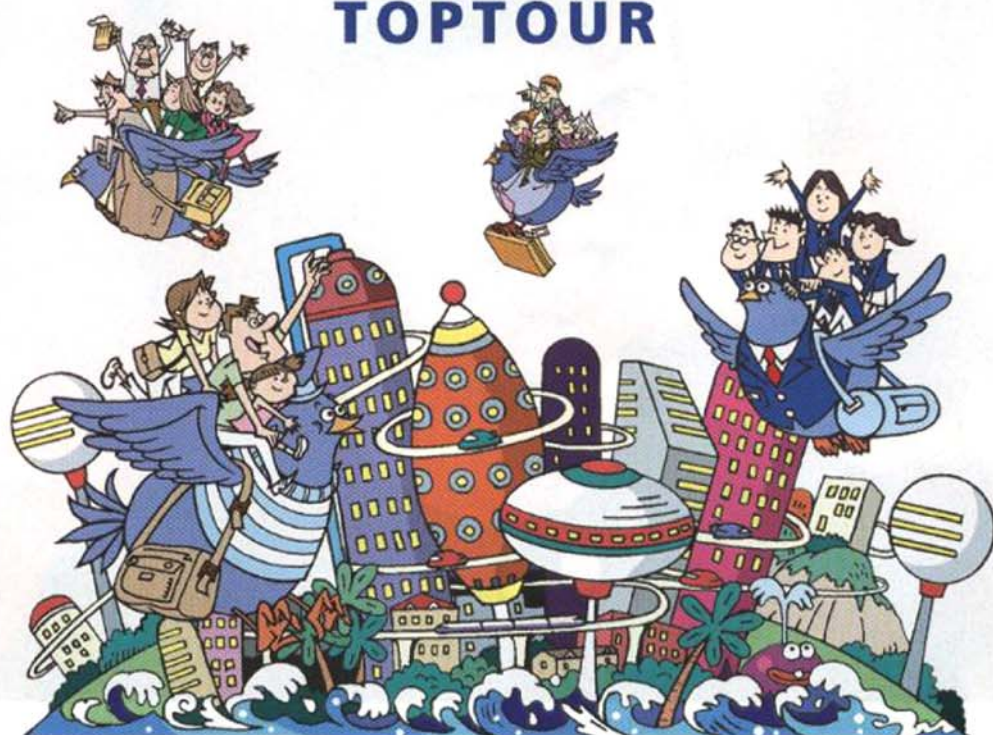
<http://www.mopas.co.jp>



The 50th Anniversary



TOPTOUR



東急観光株式会社は創立50周年を機にトップツアー株式会社として生まれ変わりました。

旅は人と人とのコミュニケーションの架け橋

旅は人と自然が触れ合う地球の扉

旅は人と歴史をつなぐ時空間のトンネル

そんな旅を創造し、提案する[旅行インテリジェンス企業]

それがトップツアー株式会社

東急観光は50年にわたる第一幕からトップツアーとして新たな第二幕のステージに立ちました。

みなさまから愛される企業をめざして……

人が行き、人が集う、それが旅。

マクロコズム

2007年3月号

通巻七五号隔月発行

定価三二〇円

(本体二一〇円)

編集協力…

内閣府政策統括官  
(共生社会政策担当)  
日本青年国際交流機構



東急観光が社名を変えました。

トップツアー株式会社

国土交通大臣登録旅行業第38号 © 日本旅行業協会正会員・ボンド保証会員  
〒153-8550 東京都目黒区東山3丁目9番1号 <http://www.toptour.co.jp> <http://toptour.jp>

株式会社三井物産